

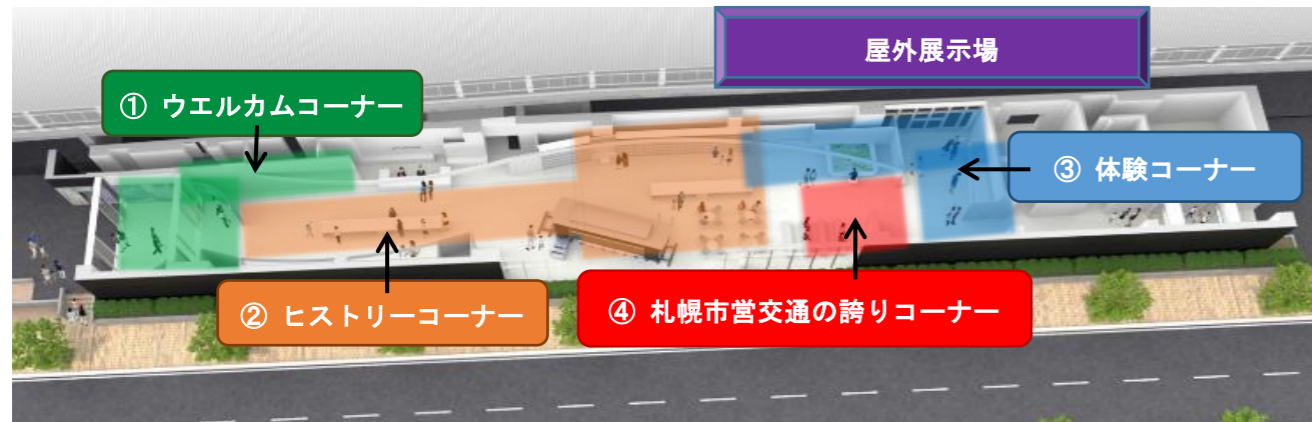
各展示コーナーのイメージ

○コンセプト

～夢をつなぐ（絆）“時空絵巻”の旅！～

「歴史をつなぐ」・「夢をつなぐ」・「市民の想いをつなぐ」の3本の柱で展示を構成し、来館者が来館後には札幌市営交通に「誇り・憧れ・信頼・希望」を抱くような意識の変化をもたらします。

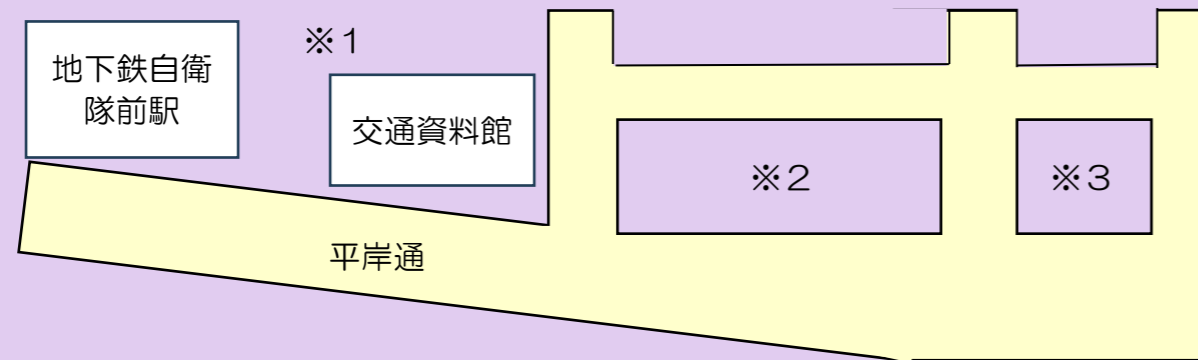
○各展示スペース



屋外展示場

■屋外展示場には、地下鉄車両5両、市電車両10両、バス車両4台の貴重な車両が展示されており、間近で見学できます。

■屋外展示場概要図



- ※1 第1展示場
バス車両4台（マイクロ型・ボンネット型バスなど）
地下鉄車両2両（すすかけ）
- ※2 第2展示場
市電車両10両（TC1、M101号車など）
- ※3 第3展示場
地下鉄車両3両（南北線営業第1号車、はるにれ）



【南北線営業第1号車】

① ウェルカムコーナー

- 施設入り口は「夢をつなぐ（絆）“時空絵巻”の旅」の始発地点です。今まさにここから、交通の旅へ歩みを進める利用者の期待（ワクワク・ドキドキ）を加速させます。
- SNS等での発信効果も狙い、路面電車や地下鉄車両のパネルを用いたフォトスポットも設置します。



② ヒストリーコーナー

- 昔の切符や様々な部品・機器など保存価値の高い交通資料をテーブル型の引き出しに収納します。ただ単に「見る」のではなく、「見つけ」、様々な角度から「観察」できる“仕掛け”を施します。



- 「木製22号」（下段参照）にプロジェクションマッピングを投影し、大正の姿や札幌市の街と交通の関係を過去の写真を使った映像表現でダイナミックに伝えます。走行で揺らぐつり革や乗客の姿をシルエットアニメーションで描き出すことで、あたかも車窓の風景が動き出し、木製22号が歴史の中に向かって発進していく姿を演出します。



【木製22号車】

名古屋電車製作所で製造された木造4輪単車。1918年(大正7年)に札幌電気軌道(株)(札幌市交通局の前身)開業に伴い、名古屋電気鉄道から購入し運行を開始しました。旧資料館閉館中は、博物館明治村(愛知県犬山市)に展示保管されていました。

③ 体験コーナー

- 車両コントローラーを用いて、ジオラマ内部の隧道を走行する地下鉄の運転が体験できます。車両の先端には小型カメラを取り付け、走行する隧道内の様子が画面に表示されます。
- 路線図のボタンを操作することで、車内のアナウンス音や普段聞くことの出来ない地下鉄の検査音など様々な音が流れます。



④ 札幌市営交通の誇りコーナー

- 日々の安全な運行を支える人達にフォーカスを当て、パネル等を用いて仕事内容等を紹介します。

